



令和2年度 入省予定
環境省総合職理工系

内定者の声

はじめに

「内定者の声」を手にとっていただき、ありがとうございます。本書は未来の仕事仲間たる皆さんの不安や疑問を解消するために、内定者の私たちが作成したものです。第一部では「内定者はどのような人か」、第二部では「公務員試験をどのように乗り切ったか」、第三部では「官庁訪問はどうだったか」について記載しています。ぜひご参考にしてください！

2020年1月 環境省総合職理工系内定者一同

《本冊子の構成》

第一部 内定者のプロフィール

- 基本データ（学科/専攻、学歴・性別・年齢、試験区分、就活スケジュールなど）
- 志望動機
- 環境省を志望される方へのメッセージ など

第二部 国家公務員採用総合職試験 体験記

- 勉強量について
- 勉強内容・試験内容について

第三部 官庁訪問 体験記

※ 環境省 Web サイトでも公開しております。
(http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g2/from_pe/)

《付記》

本冊子の内容に関する責任は、全て製作者である内定者にあります。また、各人の考え方、勉強法などはあくまで個人的な見解です。ご理解の上、ご覧ください。また、次年度以降の採用試験では、試験日時や英語試験の活用など、従来の試験と一部違いが見られる場合もございますのでご注意ください。詳しくは、人事院国家公務員試験採用情報NAVI (<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>) でご確認ください。

以上のことを十分にご理解の上、ご活用くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

第一部 総合職理工系内定者のプロフィール

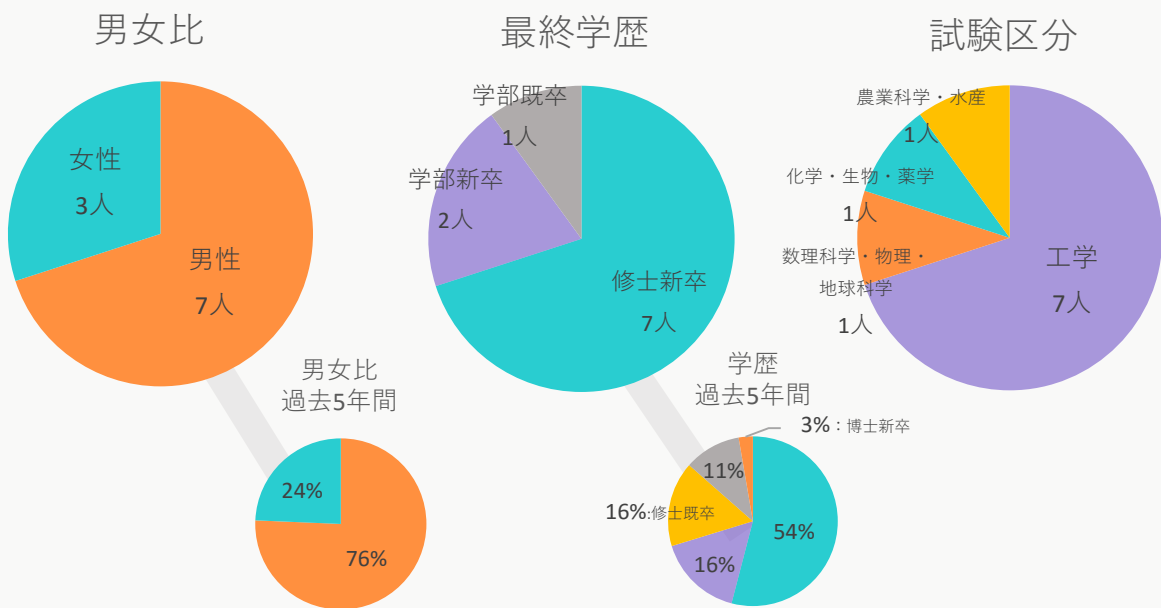
令和2年度入省予定の総合職理工系内定者は、**全10名**となりました。

第一部では、内定者のプロフィールや志望動機、メッセージなどを記載しています。

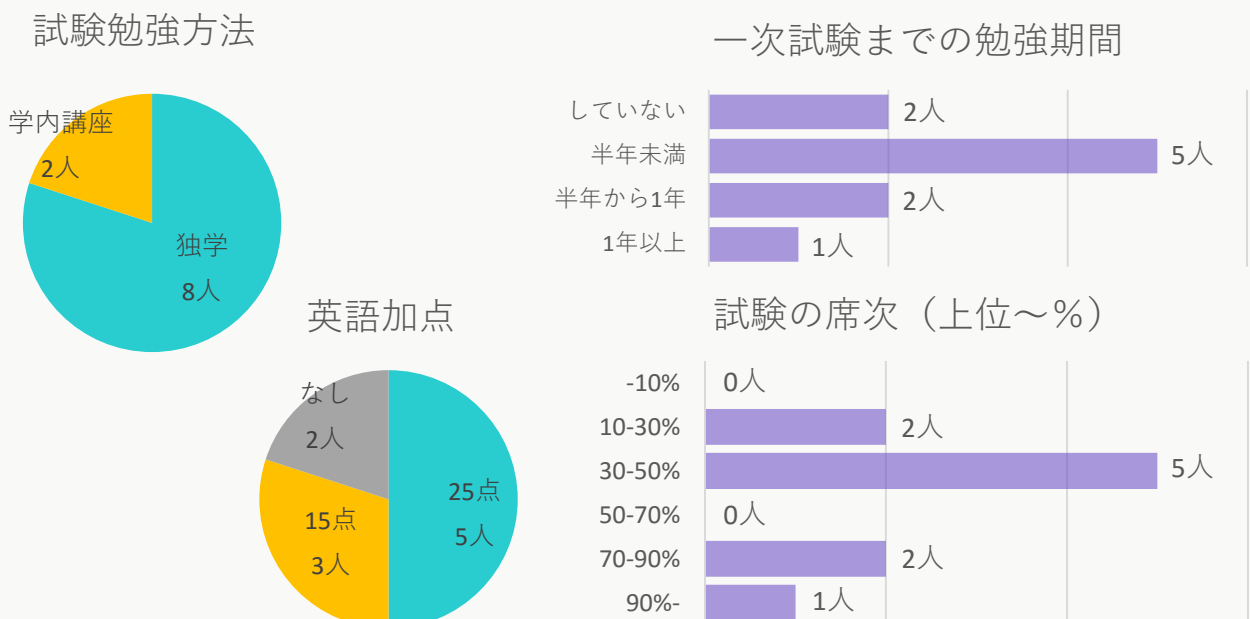
また、個人情報保護の観点から実名の代わりに各内定者のペンネームを使用しています。

本誌をご覧になっているみなさまの就職活動のお役に立てれば幸いです。

基本情報編

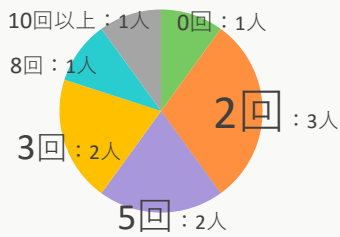


公務員試験編

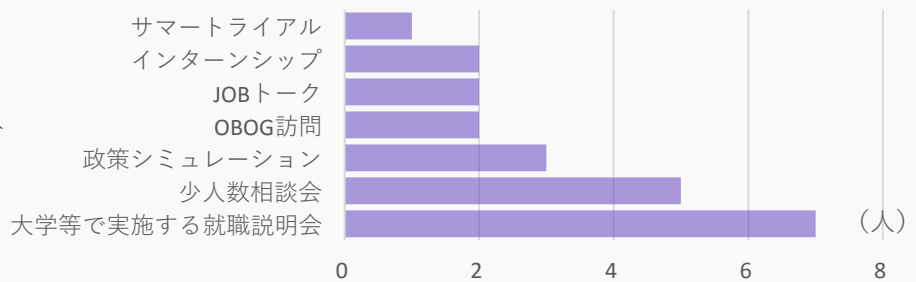


説明会編

説明会参加回数

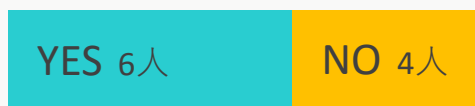


参加した環境省の説明会・イベント

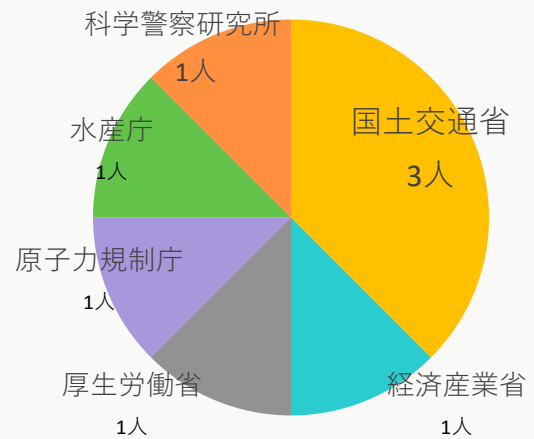


官庁訪問編

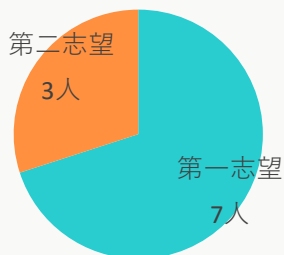
他の省庁と併願したか



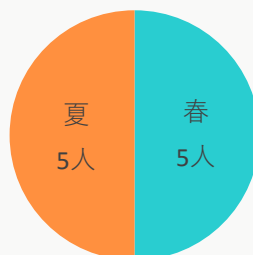
併願した官庁



環境省の志望順位



官庁訪問時期



※併願した省庁については複数省庁の併願あり

※春の官庁訪問……過年度合格者向けの官庁訪問

併願進路編

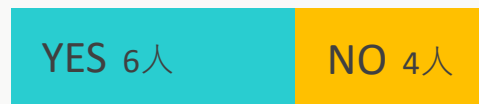
他の公務員と併願したか



主な併願先：
地方公務員

修士課程、博士課程進学を併願していた人もいました。

他の民間企業と併願したか



主な併願先：
環境コンサル/外資コンサル/化学メーカー
/食品メーカー/製薬メーカー/デベロッパー
/鉄道/ゼネコン/研究所事務系総合職
/食品系企業の研究職

くーちゃん☆

学部既卒・男性・22歳

●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 福岡県・地球環境工学科・ 建設都市工学コース	研究 最終処分場における水分移動 に関する研究
部活・サークル 帰宅部	併願進路 同大学大学院	併願省庁 なし
説明会参加回数 5回	好きなもの 空港のアナウンスの時の音	座右の銘 齋幸

●就活スケジュール

民間就活

公務員就活

大学入学

1年

● 土木系に不本意ながら入学。土木ならば国交省がいいだろうかと公務員を考え始める。

● 2月 内閣官房内閣人事局による From Japan という省庁横断ワークショップで初めて公務員の説明を受ける。

2年

● 2月 昨年に引き続き From Japan に参加し、環境省の職員さんに感動的な出会いを果たす。

● 3月 環境省で行われる就活生向けの説明会オープンゼミに参加し、職員さんに様々な相談に乗っていただく。

3年

● 8月 環境再生・資源循環局 リサイクル推進室でインターンをする。

● 10月 福島で行われた環境省の地域活性化支援事業に、稲刈りボランティアとして参加する。

4年

● 6月 国家総合職試験合格

● 7月 環境省内々定

● 10月 環境省内定

●志望動機

環境問題を解決するためには様々な利害関係の調整を企業や地方のレベルから世界のレベルまで行っていないとならず、そのことに貢献できるのは国家公務員であると考えたのが動機です。

環境問題に強い関心はもともとありましたが、それを仕事にしようと思い、決断したのは学部3年の中盤になってからでした。もともと機械系の学問をしたくて大学を受けましたが、受験がうまくいかず、土木系の学科に入りました。不本意な学科に入学したことが自分の人生を考えるチャンスを与えました。自分がやりたいことは何なのか、いろいろな場に足を運び、人と話すなかで、自分がいかに恵まれた環境で今まで生きてきたかを考えるようになりました。

「自分が生活できているのはなぜか。それはひとに限らず多くの動植物、大気や水、大地・・・、つまり自分の周りすべてのもののおかげである。自分は生きるために少なからぬ負担を「周り」にかけている。だからこそ自分の命は自分のためだけでなく、何かしらの恩返しに使わなくてはいけない。」この「周り」というのが私には「環境」でした。

環境問題はとても複雑なので、強引につき進めることはできません。「本当に環境問題解決に貢献したいのならば、根気よく一歩ずつ調整して進めていくしかないのではないか。」これができるのが環境省であると思い志望しました。

●就活を通しての成功談・失敗談

成功したこと：・とにかく多くの方と話すことで、自分のものの考え方が広がったこと。
・少ないチャンスをつかむということを覚えた。
・自分の生き方をしっかりと考え、希望通りの土俵に上がったこと。

失敗したこと：・2年で就活生向けの説明会に行き、調子に乗って質問したら皆さんの前で「君の質問はよくわからないね」といわれたこと。
・あまりニュースを把握しておらず、面接でたじろいだこと。

●環境省を志望される方へのメッセージ

とにかく

飛び込んでいろいろな話を聞く ことから始めてください。

環境省は何をしているところなのか、どんな信念があるのか、大切にしていることはなにか。説明会だけでなく、積極的にアプローチすることで深く知り、そのうえで考えられるようになると思います。手を伸ばせば届くチャンスを逃さないように、頑張ってください。



●同期への印象

面白い人が多すぎる。
みんな話しやすいので、内定式も楽しかったです！
年上が多い、。

●同期からの印象

気持ちのいい好青年/熱血/すごくポジティブ！/
飲み会とLINE、どっちが本性？笑/プレゼンがうまそう



赤ヘル

学部新卒・男性・23歳

●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 北海道・環境社会工学科・ 環境工学コース	研究 バイオガスプラントが酪農 地域にもたらす価値の評価
部活・サークル カーリングサークル	併願進路 東京都庁	併願省庁 国土交通省→ 環境省→厚生労働省
説明会参加回数 2回	趣味 野球・食べ歩き・ドライブ	座右の銘 「努力は報われる」 「素直」

●就活スケジュール

大学入学

3年

● 安定した就職を考え、公務員を検討し始める。

● 6月 **国家総合職試験不合格(2次試験)**

試験に落ちたのがきっかけで真剣に進路を考え始めた。

● 8月 **市役所のインターンシップに参加**

業務内容として重要だが、自由度に物足りなさを感じた…

● 9月 **夏の省庁の合同説明会に参加**

国で仕事をするなら環境省か国土交通省の2択だと感じた。

● 3月 **民間企業の合同説明会に参加**

両立は不可能と感じ、公務員就職1本に絞ることを決意。

4年

● 5月 **東京都庁受験(後に合格)**

● 6月 **国家総合職試験合格⇒官庁訪問スタート**

● 7月 腹をくくって院試を受けない

環境省内々定

民間就活

公務員就活

●志望動機

公務員を志した理由：

プラントやものづくりの一部に関わり、プロフェッショナルとして仕事をする民間企業の業務と比較して、今ある問題に対して国としての考え方や方針を打ち出し、周囲の自治体や民間企業に影響をもたらす点が魅力的に感じたので、公務員（国家公務員）を志望しました。

環境省を志した理由：

小さい頃から水環境に触れる機会が多く、高校の時に水に関する研究を2つしたことがきっかけで、環境問題について強く関心を持ち、もっと詳しく学んでみたいと考えました。また、高校の時に海外に短期留学をした際に訪れた国のトイレの汚さに驚き、日本の環境意識の高さを感じ、何かしら環境に携わる仕事がしたいと考えました。上記のことがあったので大学では環境工学・衛生工学を専攻し、その中で環境再生・資源循環などの環境政策に強い関心を持ちました。具体的に自分で考え、1番実行に移しやすい仕事先を考えた結果、環境省がマッチしたので志望しました。国土交通省とも迷いましたが、自分がどちらの分野に関してより自然と問題意識を持てるかといった点で環境省の方が踏み込んだ内容の質問・議論ができたことからそちらを選択しました。また、職場の雰囲気が自分としてマッチしそうだなという点も大きかったです。

●就活を通しての成功談・失敗談

<成功談>

面接の合間に周りの人と話すことで情報交換をして、次にどんな内容を聞かれるか予想した上で面接カードをもう1度チェックし直しました。結果、自信を持って答えられる質問が増えたのでその後の面接がやりやすくなりました！

<失敗談>

- ① 筆記試験：数的処理は解けると余裕をこいていたら、国家総合職の試験でコテンパンにされました… また、論文試験は「『コンプライアンス』って何？」と言葉の意味を知らなかったために痛い目に遭いました。
- ② 面接試験：面接カードの写真を貼ってくるのを忘れて会場で貼ったこと。第2クールの初日に面接カードそのものを忘れてしまいました…（結果的になくても大丈夫でしたが）

●環境省を志望される方へのメッセージ

環境省を志望するにあたって、まずはしっかりと準備をすることが大切だと思います！これは試験だけでなく希望する職種の情報収集も含めて、内定をもらうまでに必要とされるであろうことを洗い出した上で、いつ頃までに何をどの程度仕上げなければならないかを自分なりに設定し、実行できるといいかな～って思います！（実際そんな上手くはいかないのだけど…）

官庁訪問では、皆が環境に対する熱い思いをそれぞれぶつける場になると思いますが、その中で自分が考えていることをしっかりと面接官に伝えることがカギになってきます！持ちネタがあると自分の考えを伝えやすくなりますよ！！

●同期への印象



各々が何かしら得意なことを持っていて、自分に自信と誇りを持って活動している印象を受けました。みんなとても話しやすく、この人たちと一緒に仕事したいな！と強く思いました。

●同期からの印象

一生懸命で正直/いい人なのがにじみ出てる/人をほめるのが上手/おしゃべり/相談に乗ってくれそう



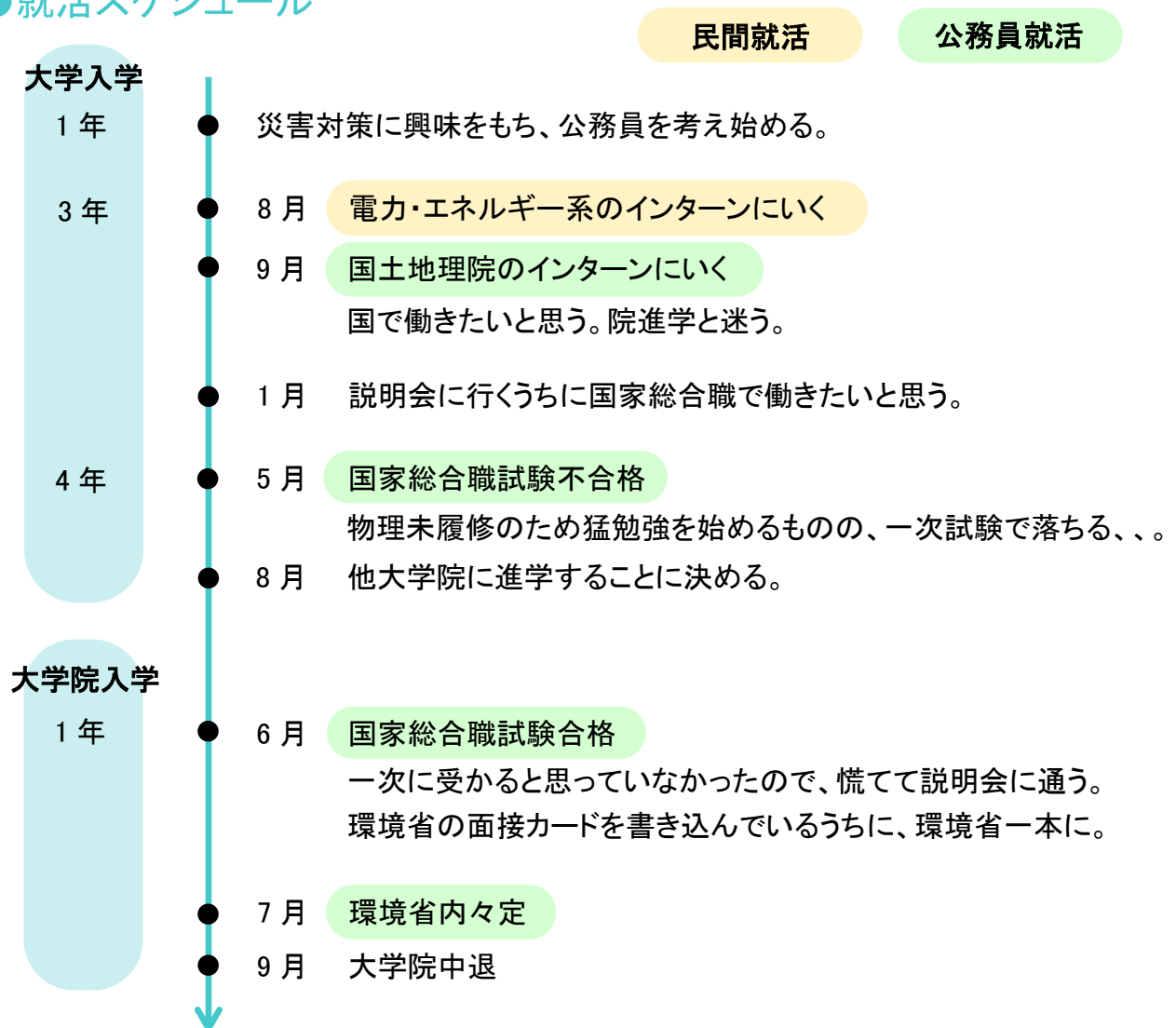
モンガー

学部既卒・女性・23歳

●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 千葉県・土木工学科・ 自然環境学専攻	研究 マイクロプラスチック汚染・ 土石流の地質地形解析
部活・サークル アカペラ部	併願進路 なし (修士1年時に受験)	併願省庁 なし
説明会参加回数 5回	好きなもの 雨の日家の中にいること	座右の銘 同じ人生をもう一度くり返したい と思えるような生き方をする

●就活スケジュール



●志望動機

★公務員志望動機の発端を探るのは難しいですが、幼い頃からニュース番組をよく見ていて、この世の中をより良くするためにはどうすればいいかと考えていたことからだと思います。世の中の仕組みづくりに携われる職として国家公務員を志しました。

★環境問題に関わりたいと考えるきっかけとなったのは、大学で研究していたマイクロプラスチック（微細なプラスチック）による不可逆的な水環境汚染を目の当たりにした経験です。このままでは、環境汚染が人々の生活を脅かす日は近いのではないかという危機感を抱きました。大学では土木工学を専攻していたため、はじめは災害対策に直接携われる道を志していましたが、自然災害を少し離れた視点からみると環境問題に行き着くことが多々ありました。今日の自然災害に対するハードのみの対策には限界を感じていたこともあり、幅広い視点を持てる環境という分野に魅力を感じました。

★環境省を志望した理由は、環境問題を独立させて捉えずに、社会・経済システムに持続可能性を付加させるなどして環境問題を解決していくという包括的なアプローチに魅力を感じたためです。民間企業を考えなかったのは、環境問題には物事を長い目（100年単位）でみて、広い視野で議論することが不可欠であり、国家機関である環境省でしかできないことがあると考えたからです。

ただ最終的には、公害対策が中心だった環境庁時代からの精神である「困っている人を助けたい」という職員の方々の思いが、私の原動力と一致したことが何よりの理由だと思います。官庁訪問の時点で他の選択肢との迷いはありませんでしたが、職員の方からお話を伺うなかで、「環境省はみんながやりたがらない仕事もやる。困っているものの最後の砦でありたい。」という言葉聞いたとき、心が決まりました。

●就活を通しての成功談・失敗談

★成功談と言っているのかわかりませんが、国家総合職が第一志望であった私にとって修士1年で官庁訪問を行ったことは、就活において後が無いという心配をせずに官庁訪問ができたのでストレスフリーでした。中退で迷惑をかけるのでオススメはできませんが。

★失敗談は TOEIC の点数が低いまま試験に臨んでしまったことです。公務員就活に限らずあれば嬉しいものなので、時間がある時期にきちんと準備して受けた方が良いと思いました。

●環境省を志望される方へのメッセージ

私は、もともと地学が好きだという気持ちからいろいろと派生して、興味のあることに時間を費やしているうちに環境省にたどり着きました。振り返ってみると、フラフラしながらも自分の気持ちを偽らなかつたことが納得のいく結果につながったのではないかと思います。

（もっとも、就職活動は運もあると思います！）ぜひ官庁訪問では、自分の本当の気持ちを、自分の言葉で話してみてください。飾った言葉よりもずっと響くと思います。応援しています。

●同期への印象



自由な雰囲気をまとつつも、協調性がすごい！
スポーツ好きやスポーツマンが多い！

●同期からの印象

コミュニーが一番ありそう/言葉選びが優しい/行動力がピカイチ！/
お母さんっぽい/愛され上手



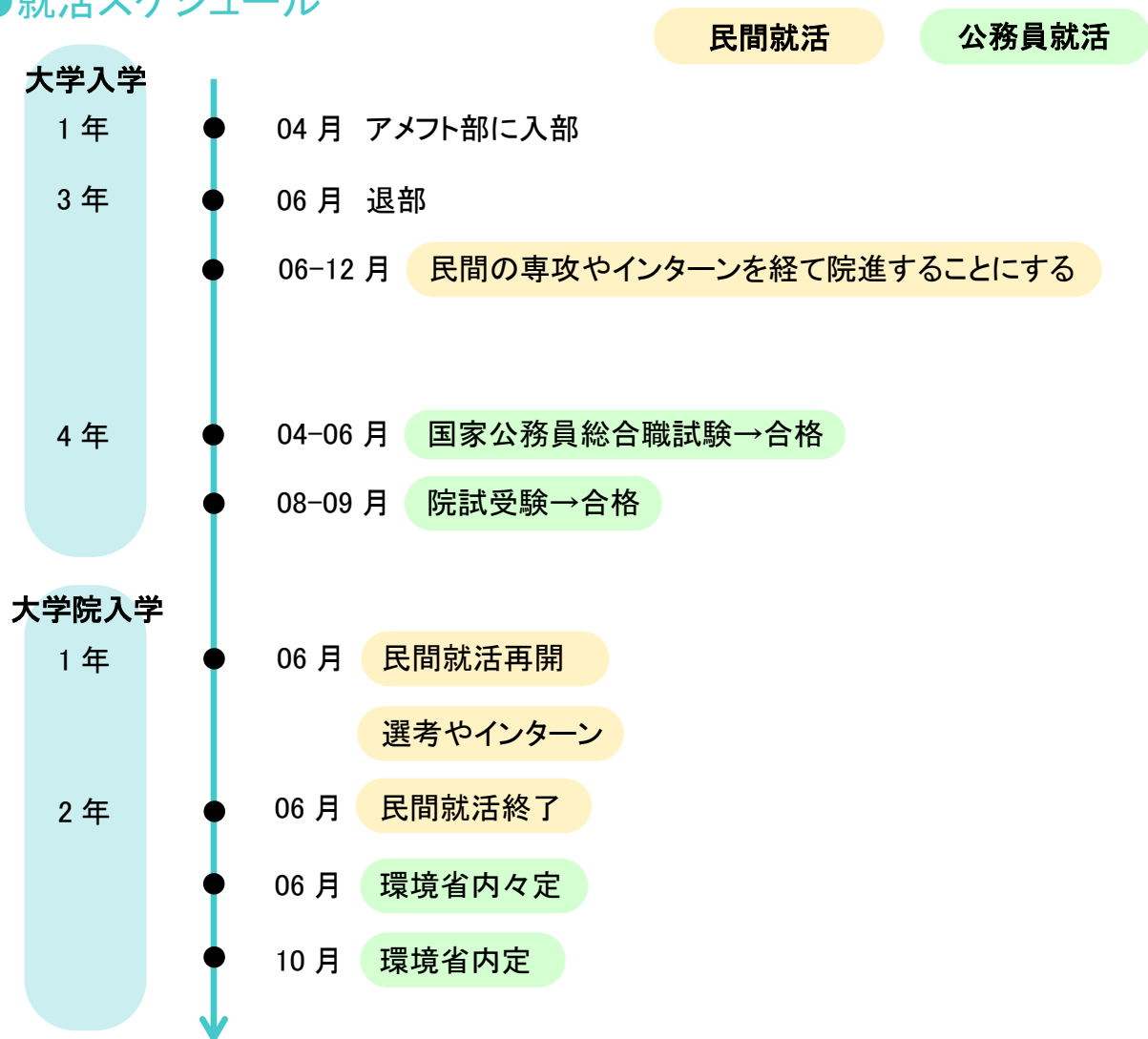
とてた

修士新卒・男性・24歳

●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 東京都・都市工学専攻(大学院)	研究 泥に含まれる化学物質の影響評価
部活・サークル アメリカンフットボール部	併願進路 公務員・デベロッパー 外資コンサル・水・鉄道	併願省庁 環境省 →国土交通省
説明会参加回数 0回	好きなもの スポーツ全般 特に筋トレ、野球、サッカー	座右の銘 なんとかなるさ

●就活スケジュール



●志望動機

公務員

多くの人を幸せにできる仕事をと考えた結果、ルールや方向性を決められるポジションならば多くの人に影響を与えられると考え、国家公務員を志望するようになった。

環境省

人々を取り巻く生活環境を良くしたいと考えており、身近な所では公衆衛生など、大きな視点では地球温暖化などの幅広いスケールで人を取り巻く環境問題に取り組めると考えたから。

決め手

他の省庁や企業とも迷っていたが、それぞれの業界の将来を考えた時に、環境はすべての分野に絡む上、多くの人に関心事になっていき、重要な役割を果たすと考えたから。

●就活を通しての成功談・失敗談

- ・会社説明会やOBOG訪問に一切行かなかった企業には一次面接で落とされた
- ・学部3年から動いていたので、色んな業種を検討できた
- ・先輩や社会人の方と会って話したこと

●環境省を志望される方へのメッセージ

- ・色んな業界をみること→他業界他組織と比較することではじめて良さ悪さが浮き彫りになるから
- ・社会人の人と会うこと→根本的に考え方が異なっていることが多い、自分にない考え方を授けてもらえる。事例だと上記の「決め手」は自分になかった視点だった
- ・早い段階で就活をしたり、試験を受けてみる→先手先手で動けると余裕をもって動け、精神的に変に疲労しなくて済む

●同期への印象



元気いっぱい

●同期からの印象

モリモリマッチョマン/頼りがいがある/ザ・リーダー/
マイペース/自分を持っている



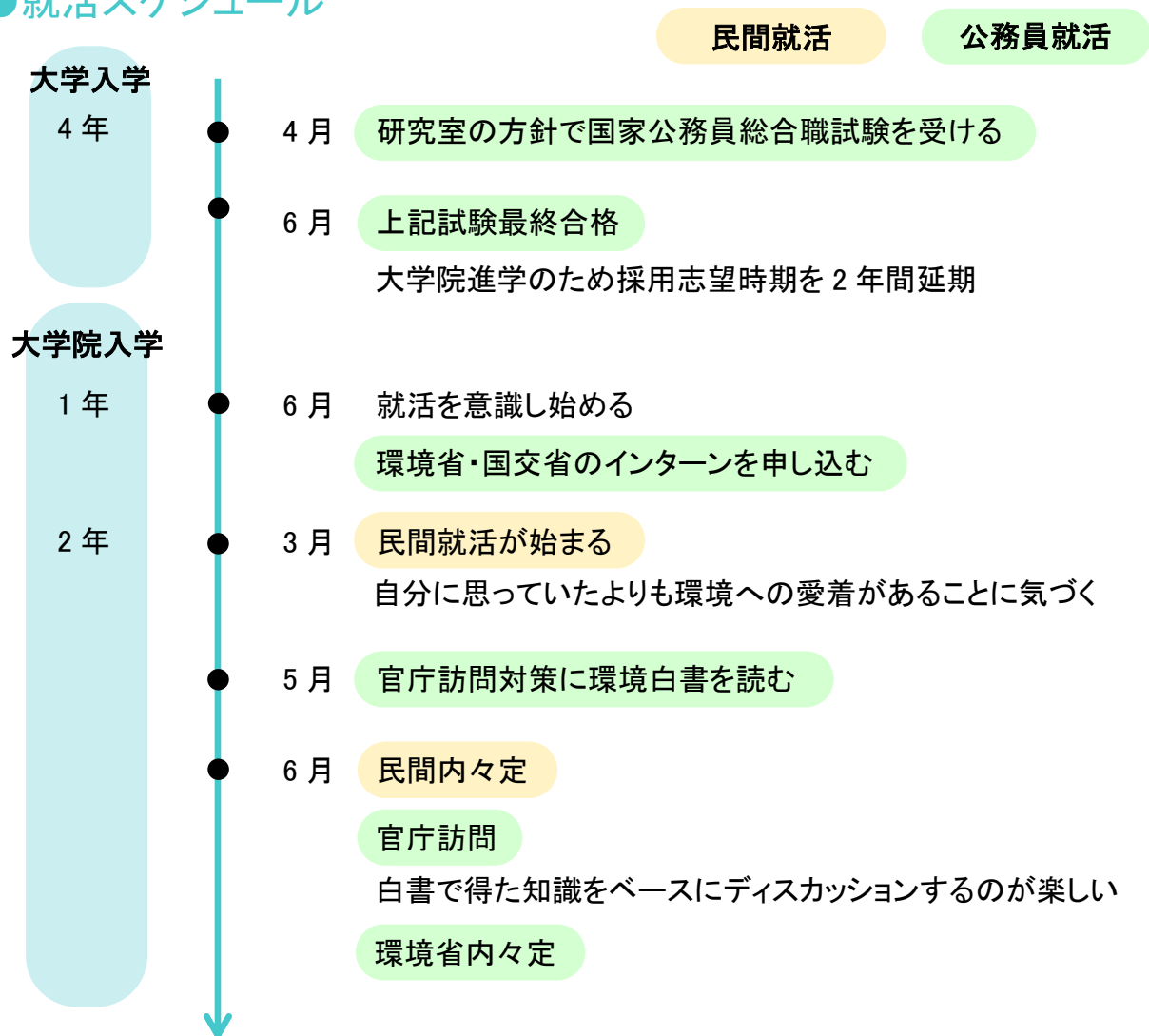
アロマ

修士新卒・男性・24歳

●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 宮城県・工学研究科・ 土木工学専攻	研究 内湾の一次生産
部活・サークル 漫画研究会	併願進路 ゼネコン、小売業	併願省庁 なし
説明会参加回数 8回	好きなスイーツ パンケーキ、タピオカ	座右の銘 美味しいものを食べてこそその 人生なのです

●就活スケジュール



●志望動機

僕が自然環境に愛着を持ち、守りたいと思い始めたことに、印象的なきっかけはありませんでした。しかし、いつの間にか、山林、野生動物、河川といった自分を取り囲む自然環境全般を好み、これを保全することに意義を感じるようになりました。この理由を考えたところ、僕のこれまでの人生を取り囲んでいた、省エネ、クールビズといった社会全体の風潮が僕の環境保全意識を自然に育てていたことに気が付きました。この気づきは僕に、環境意識の向上とそれを与える環境教育が人の思想へ及ぼす影響の強さを実感させ、僕は職業としての環境貢献に興味を持ち始めました。

しかし、企業に ESG 意識が求められ、環境保全がビジネスチャンスとまでなる現代においては、環境に貢献できる仕事はほんとうに幅広い業界に存在していました。そこで、僕が進路を選ぶ指針としたのは「環境と何を天秤にとっているか」でした。

僕にとって自然環境とは大切に守りたい対象、そして次世代の為に維持していかなければならない対象ですが、それを守るためなら他の何を犠牲にしてもいいというわけでもありません。それはどの業種でもおそらく同じで、本業の発展、利益の獲得、スタッフの幸せ等さまざまな要因と天秤を取りながら、その集団の目的に沿って優先順位を決定しています。

環境省の任務は、地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護及び整備その他の環境の保全を図ることです。しかし国家の機関である以上、国民の生存と発展を第一に考え、経済や社会とバランスを取りながら統合的向上をしていくことが求められます。そのスタンスにしっかりときたことが、僕が環境省を志した理由です。

●就活を通しての成功談・失敗談

成功談は、官庁訪問で政策や環境省のこれからのについての議論をした際に、白書を読み込んでいた経験がかなり役立ったことです。

白書は、ただ読むだけではなくて批判的に読みなさいと言われました。もちろん環境行政のプロが作った文章ですから、学生である私の知識経験では「これは自分はそうは思わないなあ」とか「ここって本当にそうなのかな」といった違和感のようなものを持つ程度しかできませんでした。しかし、それが寄り集まることで、「誰かが言っていたこと」ではない自分の意見のようなものが徐々に形成されていきました。この作業の繰り返しで、主張に信念と説得力を乗せられたことが、官庁訪問で生き残れた理由なのかなと思います。

●環境省を志望される方へのメッセージ

あらゆる問題に、環境省職員として何ができるかという視点を持つことが大事だと思います。規制をするのか、補助金を出すのか、税を課すのか・免除するのか、情報を発信するのか、情報の公開を義務付けるのか。そうすることで、業務のイメージがより描きやすくなり、官庁訪問対策になったりするのではないのでしょうか。将来職員として働く際の訓練にもなると思います。なんてかなり偉そうな感じのことを言いましたが、視点は身近で単純でいいと思います。僕はタピオカ用ストローをプラ製から食べられるやつにしたいです。

●同期への印象



みんなで鍋の材料を買いに行ったとき、テキパキ分担して食材とか道具とかを揃えていくのを見て「これが国家公務員の行動力か〜」って思いました。

●同期からの印象

インスタグラマー/女子力ありすぎる/おっとり/和みキャラ/
積極的に取り組む人/楽しい雰囲気を作ってくれる



てら

修士新卒・女性・23歳

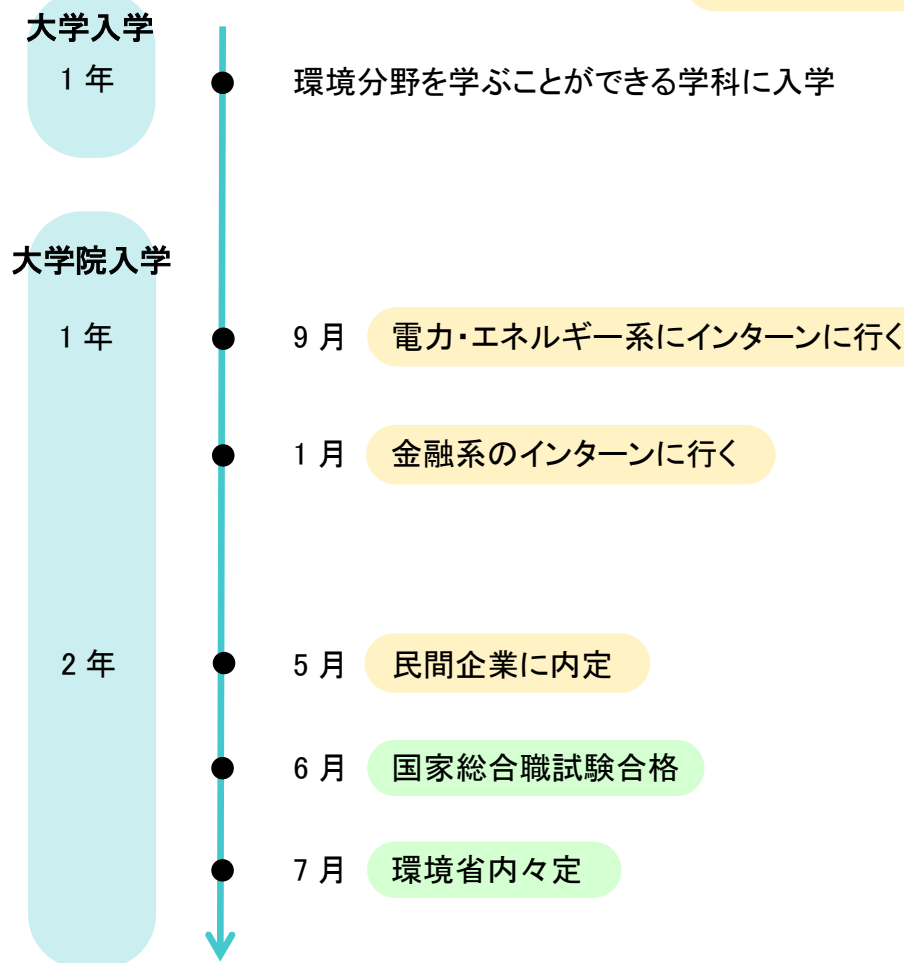
●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 大阪府・工学研究科・ 環境・エネルギー工学専攻	研究 耕作放棄地を再生することによる環境・健康便益の評価
部活・サークル 福祉ボランティア	併願進路 コンサルティング	併願省庁 なし
説明会参加回数 4回	好きなもの 数独	座右の銘 大丈夫。死にはしない。

●就活スケジュール

民間就活

公務員就活



●志望動機

東日本大震災がきっかけで環境に興味を持ちました。放射性物質という目に見えない何かが環境中に放出され、人の命を脅かしていくことの恐怖と自分の無力さを思い知ったからです。

私の場合は、環境分野の専門家か国家公務員か、その二つの選択肢で迷いました。その結果、社会に与えるインパクトが大きいことはもちろん、政策づくりの現場をみたいという好奇心があったのと、広い視野を持ちながら仕事ができるということが魅力で、環境省を志望しました。

また、官庁訪問の際に出会った職員の方々が環境について真剣に考え、悩んでいる姿をみて、ここで働きたいという思いがさらに固まったような気がします。「理想は高く、いまできることを地道にこつこつと」という言葉がとても印象的でした。

●就活を通しての成功談・失敗談

社会人の方や先輩のお話はとても参考になりました。いろいろな人の人生に触れ考え方を吸収することで、自分の考えが整理されていき、志望動機もどんどん洗練されていったような気がします。この時期にしかできない、むしろラッキーだと思って、聞きたいことを思う存分聞いてみてください。

就活を終えて、もう少し広く業界を見ておけばよかったなと思います。私は、はじめから環境に携わる仕事をしたいと思っていて、就活イベントやインターンなどにもあまり積極的に参加していませんでした。一度先入観を捨てて興味のない仕事に目を向けることは、社会勉強にもなりますし、自分のいままでの考えを再確認する上でも役に立つといまになって思います。自分の決断に後悔はありませんが、今後働いていく中での意識や覚悟がもしかしたら違ったのかなど。失敗談というより、反省点です。

●環境省を志望される方へのメッセージ

就活の時期は焦りや不安で大変だと思いますが、周りに流されずに自分の将来のことを素直に考えてみてください。正解とか不正解とかはないです。

環境問題の解決に向けて、一緒に働けるのを楽しみにしています！！



●同期への印象

十人十色でおもしろい
個人個人はばらばらなのに揃うとなぜか一体感がある（笑）

●同期からの印象

周りをよーく見てそう/真面目と思いきやお茶目/
鋭いツッコミがいい!/雰囲気柔らかい/芯がある



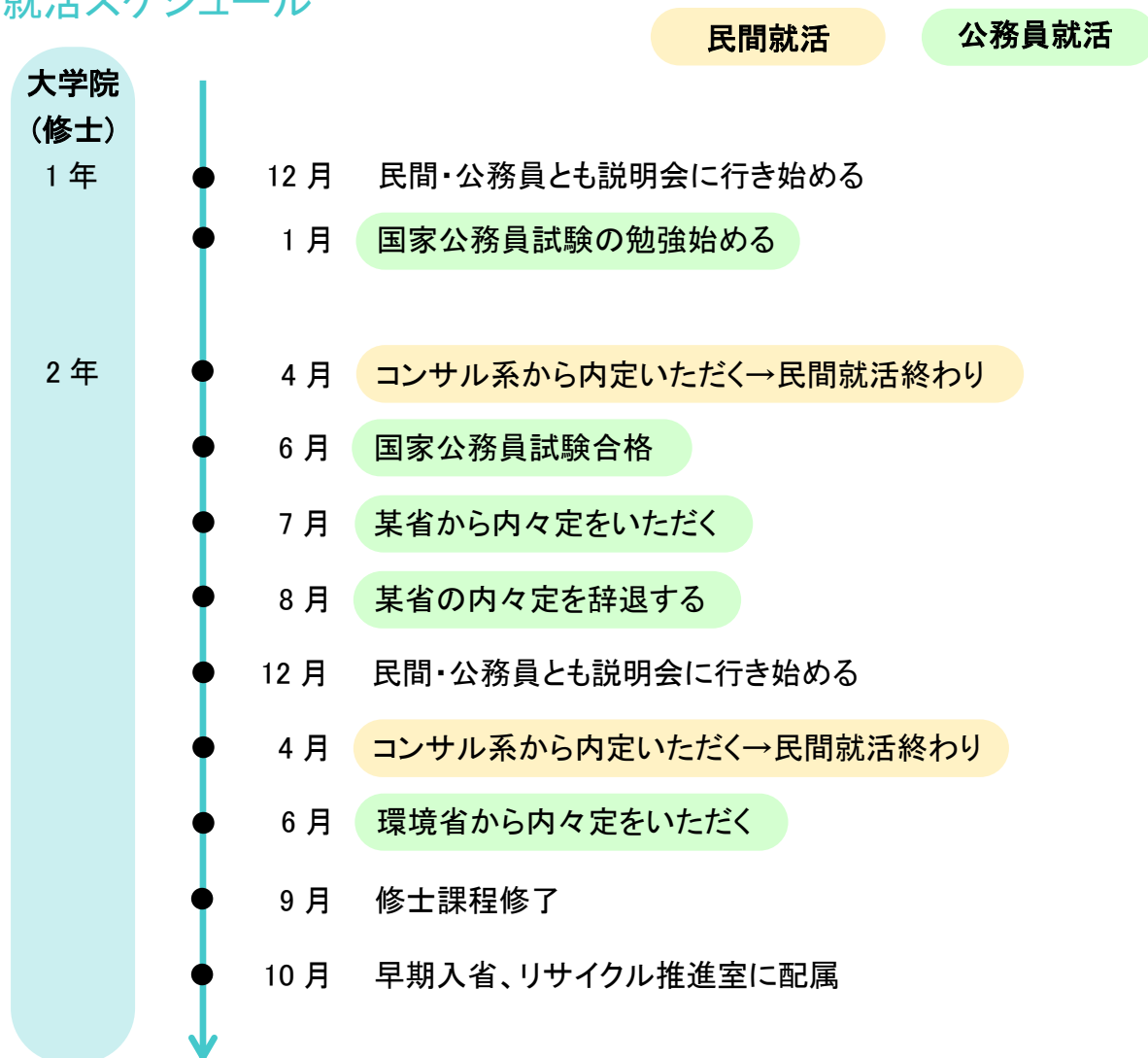
身の丈 177 センチ

修士新卒・男性・26 歳

●プロフィール

試験区分 工学	大学所在地・学科・専攻 東京都・工学系研究科・都市工学専攻	研究 環境水中溶存有機物の質量分析
部活・サークル バレーボール部(高校)、 バドミントンサークル	併願進路 地方公務員、コンサル	併願省庁 環境省→原子力規制庁
説明会参加回数 10 回以上	出身地 愛知県春日井市	好きな本 人生論ノート

●就活スケジュール



●志望動機

環境×公務員=環境省という考えなので、分けて書きます。

・なぜ環境か

環境に関心を持ち始めたきっかけは、2005年の愛・地球博に行ったことです。私は当時小学6年生で半年の会期中に24回(ほぼ毎週末!!)通いつめていました。そのときに、企業や世界各国のパビリオンを見て、技術開発やグローバル化の先に輝く未来が待っているんだと感じた反面、「環境」、「持続可能性」といった問題は、ますます顕在化し、かつ解決が難しいのだと強く印象に残りました。

就職活動の中で、いわゆる“自己分析”をするわけですが、上記の体験が私の環境への想いのきっかけであり、その全てですね。ひどく単純な人間です笑。

・なぜ公務員か

環境問題の解決に貢献したいと思う中で、どんな職業に就こうかと迷いました(皆さんもまさにそうかもしれませんが)。環境問題の解決と持続可能な社会の実現は、多くの場合同じ方向性(もっといえば同じ意味)であると思うのですが、公務員がピッタリだと直感しました。

釈迦に説法ですが、「持続可能」とは、「将来世代のニーズを損なわずに、現代世代のニーズを満たすこと」で、日本国憲法15条には「すべて公務員は、全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない。」とあります。制定当時は、ある時間断面に生きる国民の“全体”を想定したと思いますが(※個人的な見解です)、任意の時間に生きる国民の“全体”と考えると、そのまま「持続可能」のことだと気づきました。壮大な勘違いなのかもしれませんが、これからの公務員という職業に大きな可能性と魅力を感じました。

●就活を通しての成功談・失敗談

答えになっていませんが、失敗によって自分の弱みに気づいて、それを埋めていくプロセスこそ、就活(というより人生?)だと思うので、いっぱい失敗してください笑。

(就活スケジュールをご覧いただけるとわかりますが、)就活を2回している立場から、僭越ながらアドバイスをするならば、採用担当が選考するのと同様に、自らも職業・職場を選ぶのだという気概?心構え?を持って臨んでほしいと思います。そのために、周到的な準備をしてください!

●環境省を志望される方へのメッセージ

環境省で働き始めて、およそ1ヶ月でこれを書いています...

「海洋プラスチック問題」「プラスチック資源循環戦略」「レジ袋有料化」などなど、ホットな課題に取り組む課室に配属されました。毎日、忌憚のない議論や新しい政策がまさに生まれつつある様子を肌で感じ、わくわくしながら働いています。

そんな、わくわくするような職業・職場に、皆さんが出会えることをお祈りしております。それが環境省であれば、より一層うれしいですが!

●同期への印象



みんなよくしゃべるという共通点がある一方、十人十色とはよく言ったもので、良いバランスの10人だと思います。いいところを出し合って、足りないところを補い合える、そんな同期でありたいな~

●同期からの印象

しっかりしてて、仕事がめっちゃできそう/話しやすい/
頼れる/気に入った人の影響を受けやすいらしい



食洗器

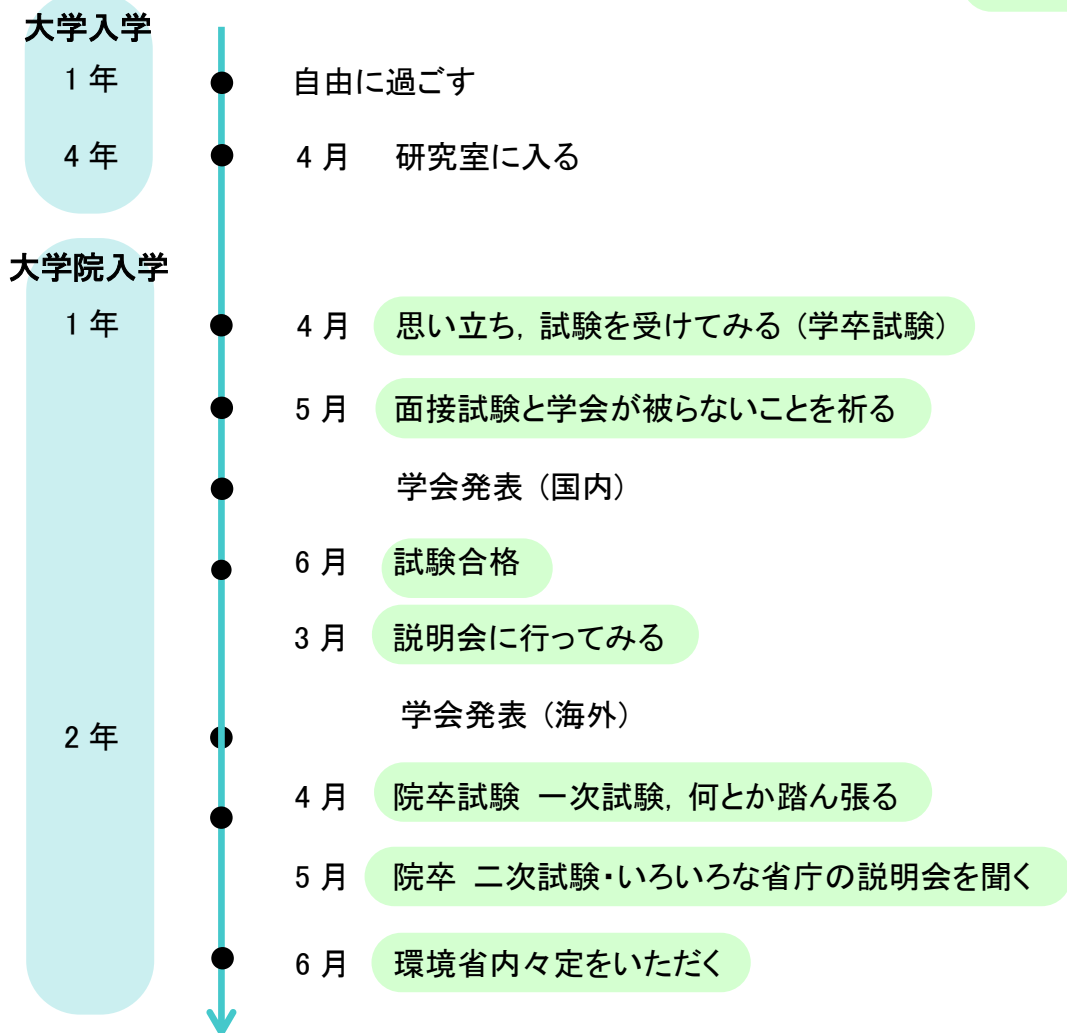
修士新卒・男性・24歳

●プロフィール

試験区分 数理学・物理・地球科学	大学所在地・学科・専攻 茨城県・生命環境科学研究科・ 環境バイオマス共生学専攻	研究 土壌侵食 (+放射性物質の移行)
部活・サークル ソフトテニス	併願進路 地方公務員	併願省庁 国土交通省→ 環境省
説明会参加回数 5回	出身 鹿児島生まれ 東京育ち	マラソンの記録 5時間半

●就活スケジュール

公務員就活



●志望動機

- 国家公務員・環境省に興味を持ったきっかけ

最初に公務員を考え始めたのは、防災・減災に関わる仕事についてみたいと思ったときです。地方公務員として、河川管理などを通して、など様々な可能性を考えていました。

環境省に興味を持ったきっかけはいくつかありますが、そのうちの 하나가福島の復興です。私は福島県で放射性物質関係の研究をしています。その中で、地元の方と話す機会がありますが、放射能に関する専門知識の深さに毎回驚かされます。それだけ、地元への愛着や、どうにかしたいという気持ちが強いのだと思います。そういった方々のため、何か手助けができないかと思ったのがきっかけの一つです。

- 環境省で働くことにした決め手

一番広い視野を持って働くことができる場所だと思ったことが決め手です。どこの省庁でも、国家公務員なら広い視野を持って働くことが求められると思います。その中でも環境省で一番自分の視野を広げられると思ったのは、大きなタイムスケールで考えていると感じたからです。20年、30年ではなく100年、200年先をみながら、どうすれば将来世代の生活を守ることができるか、ということを考えながら仕事ができるのは、ほかの省庁にはない魅力だと思います。

●就活を通しての成功談・失敗談

公務員だけでなく、民間就活もするべきでした。面接を受けるところまでいかないにしても、説明会に行くことで、どうして国家公務員がいいのか、という部分をもっと考えやすかったのかなと今になって思います。また、国家公務員と民間企業の関わりは自分が思っていた以上に多いので、そういった意味でも、いろいろな業界について知っておくことは官庁訪問の際にプラスになると思います。

●環境省を志望される方へのメッセージ

分野を限定せずに話を聞くといいと思います。それは環境省だけに限りません。私は公務員しか受けていませんが、それでも10省庁ほどの説明会を聞かせていただきました。いろいろと話を聞かせていただく中で、自分が何を基準に判断しているか理解できるようになり、自分の軸となるものが私は見えてきました。私はこれが官庁訪問をする際に非常に役立ちました。軸を持っていることで厳しい質問をされても、ぶれずに答えることができたと思っています。

また、環境省以外の話を聞くことで、環境省への志望動機がはっきりすることもあります。ぜひ、環境省・公務員に限らず、いろいろな話を聞いてみてください。

●同期への印象



初対面でもガンガンしゃべる人が多くてびっくりしました。いろいろなタイプの人が出て、面白いです。

●同期からの印象

落ち着く/ちゃっかりノリがいい/お父さんぽい/穏やか/
みんなを優しく見守る余裕や包容力を感じる/福士蒼汰に似ている(本人談)



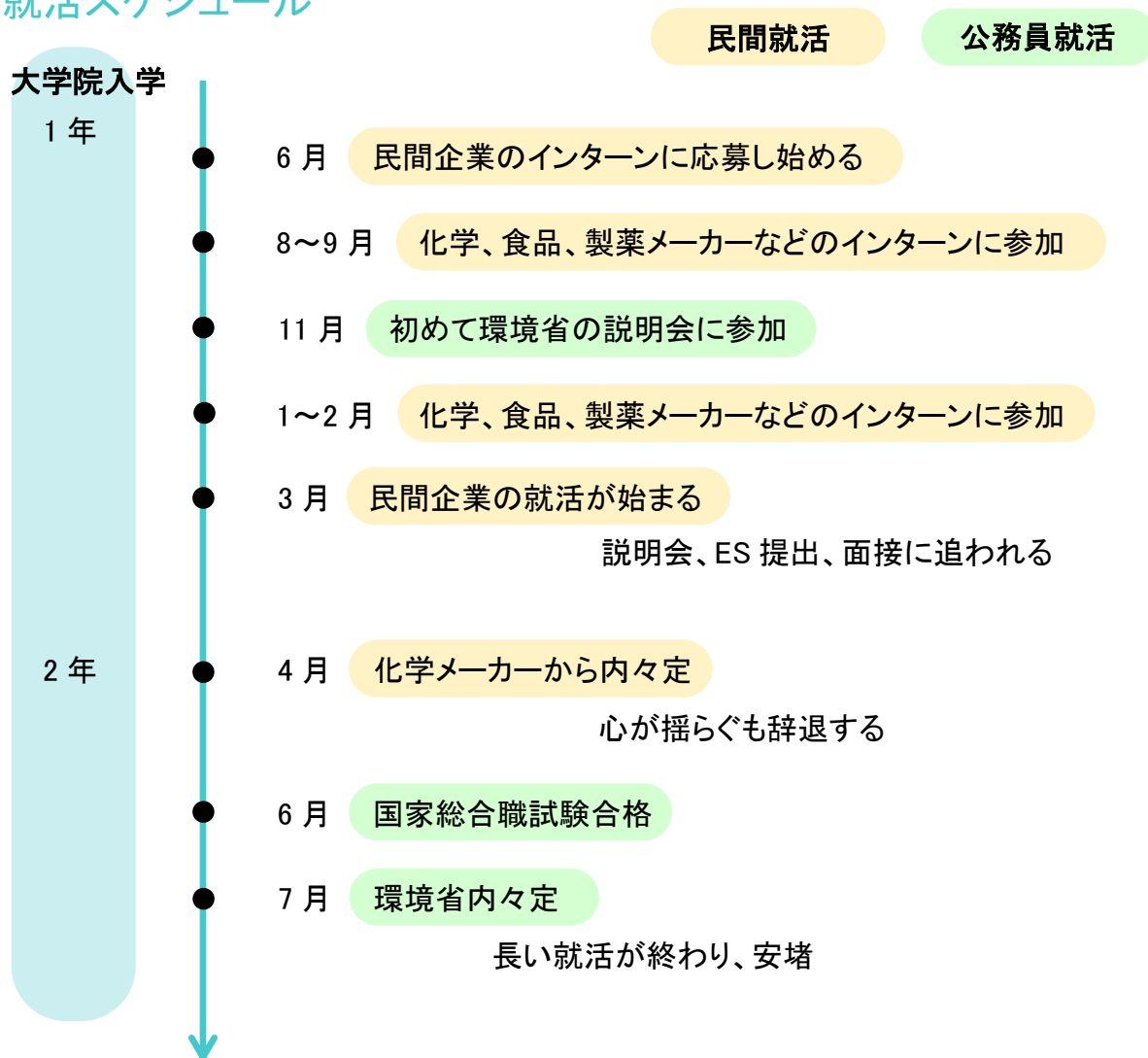
マスター

修士新卒・男性・24歳

●プロフィール

<p>試験区分 化学・生物・薬学</p>	<p>大学所在地・学科・専攻 東京都・生命理工学院・ 生命理工学系専攻</p>	<p>研究 生分解性プラスチック生産菌の 遺伝子発現制御スイッチ開発</p>
<p>部活・サークル バドミントンサークル</p>	<p>併願進路 公務員、化学メーカー、 食品メーカー、製薬メーカー</p>	<p>併願省庁 環境省→科学警察研究所 →経済産業省</p>
<p>説明会参加回数 3回</p>	<p>趣味 映画鑑賞、プロ野球観戦</p>	<p>好きな景勝地 鋸山</p>

●就活スケジュール



●志望動機

私は持続可能で豊かな脱炭素社会を実現させ、恒久的な地球環境の保全に貢献したいと考えて環境省を志望しました。

大学院では再生可能なバイオマス資源を活用した環境調和型プラスチック材料に関する研究を行っていて、当初は研究者の立場から環境保全に携わりたいと考えていました。しかしながら研究を進めるにつれ、環境保全を目指した技術は企業の収益に直接結びつかない場合が多いという事実を痛感しました。そのため、基礎研究レベルでは革新的な技術であっても、実際に社会に受け入れられるのは難しい現状にあるとわかりました。今後、このような環境調和型の技術を社会に広く実装していくためには、環境保全技術に収益とは違った新たな付加価値を与える政策の立案が重要であると私は考えています。

地球温暖化、大気汚染、マイクロプラスチックによる海洋汚染など、現代社会は様々な環境問題を抱えています。将来は行政官として柔軟な発想力と確かな判断力をもって日本のみならず世界にも広がっていくような革新的な政策を打ち出し、美しい地球を後世に残していきたいと志しています。

●就活を通しての成功談・失敗談

私は民間企業と国家公務員を並行して就活を行いました。苦労もありましたが、民間企業の就活を通して面接を何度も経験することができたのであまり緊張せずに官庁訪問に臨むことができました。

公務員しか考えていないという方も、練習だと思って民間企業の就活を経験してみてもはどうでしょうか？

●環境省を志望される方へのメッセージ

進路を選択するにあたって悩む時期もあると思います。環境省内定までは長い道のりですが、妥協せずに将来なりたい自分を一番に考えて就職活動を頑張ってください。



●同期への印象

個性豊かで面白い人がたくさん！
会ってすぐにみんなと打ち解けることができました。
これから一緒に働くのがすごく楽しみです。

●同期からの印象

本を読むのが好き？で、知識量が豊富/デザインのセンスあり
/お兄さんキャラ/かわいい一面もある



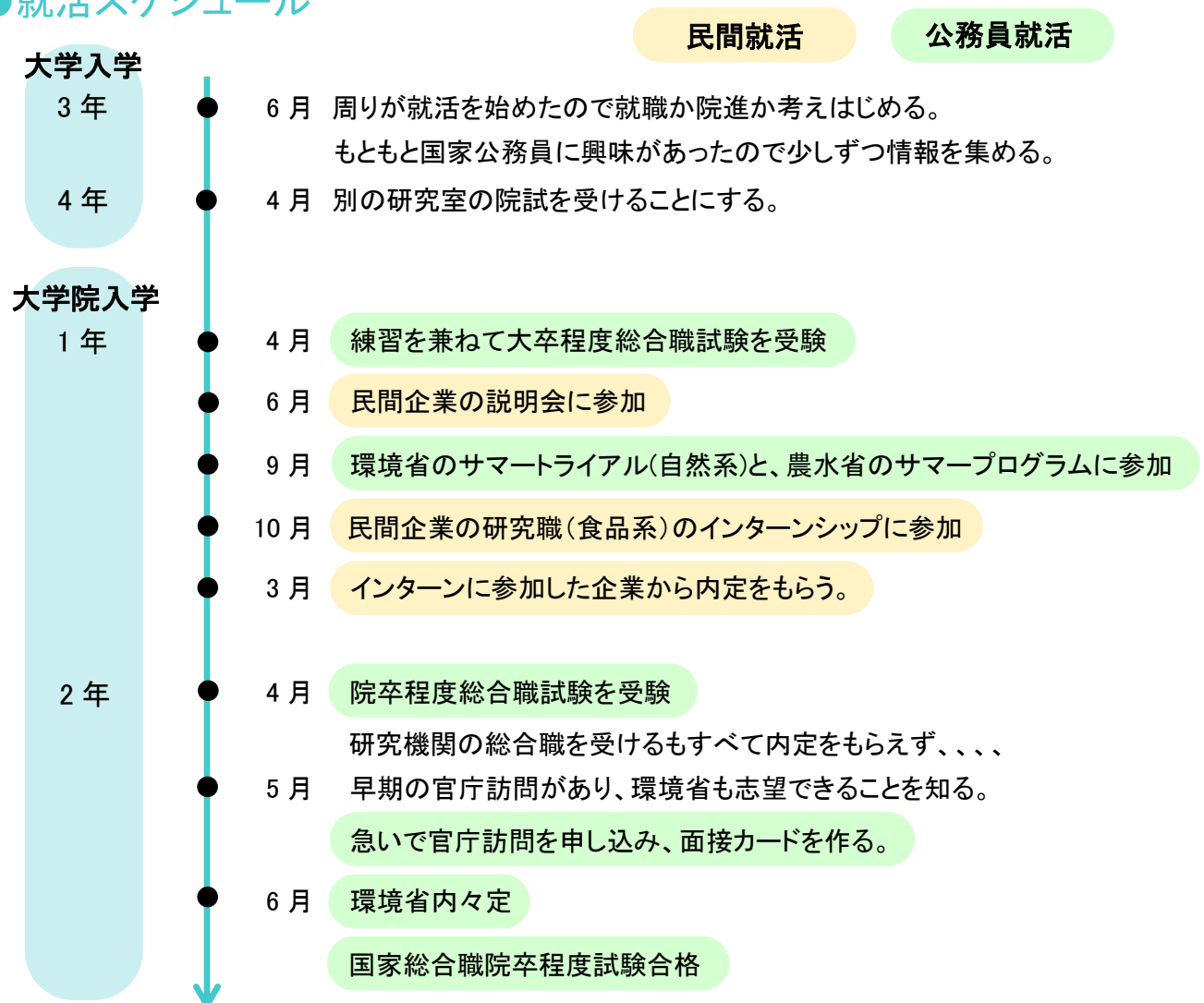
6年生

修士新卒・女性・25歳

●プロフィール

試験区分 農業科学・水産	大学所在地・学科・専攻 京都府・農学研究科・ 応用生物科学専攻	研究 名古屋港に来遊するスナメリの 生態解明と船舶の影響評価
部活・サークル 生協学生委員会 持久走同好会	併願進路 企業研究職・シンクタンク・ 研究機関総合職	併願省庁 水産庁 →環境省→農林水産省
説明会参加回数 2回	好きなもの イルカやクジラ・和太鼓 アニメ	座右の銘 何事も経験

●就活スケジュール



●志望動機

人と自然とが共存できる社会の実現を目指したい、というのが私の一番の志望動機です。そのために環境問題に興味のない人も、環境よりも自己の利益を優先させたいという人も巻き込んで、国単位で動いていかなければ環境問題の解決はもちろん、人と自然の共存できる社会の実現は難しいという思いから、環境省総合職理工系として働きたいと思いました。

ここまではいいのですが、そこに思い至るまでを詳細に説明しようとするとな非常に長いので、以下は読んででも読まなくても結構です(笑)

ある小説がきっかけで、人のために国を変え、動かすことができる国家公務員というものに漠然とした憧れを抱いており、自分も人のためや何かのために働きたいという思いを持っていたところから、国家公務員に興味を持っていました。

そして大学に進学し、研究や就職活動をする中で、野生動物や自然環境を保全するのにつながることは何かを考えるようになりました。研究者であれば自然そのものを対象として研究することで知見を集め、具体的な方策について考えることができる。民間企業では近年環境への関心が高い会社は多いものの、一般的には自社の利益を最大化する中で、商品価値として環境保全の取り組みを組み込む、という形が多い。といったことを実感し、最終的に環境を主軸において動くことができる、また民間企業や国民との接点も多いという点で環境省の志望度が高くなっていきました。

●就活を通しての成功談・失敗談

修士1年の3月末に学会発表を申し込んでしまったがために、4月の院卒程度試験の勉強がほとんどできないまま4月になってしまったときは非常に焦りました。その前年度の貯金がないとおそらく受かっていなかったと思います。

私は練習の気持ちで修士1年のときに学部卒程度試験を受験しましたが、のちのちになって早期の官庁訪問に参加できたこともあり、受けておいてよかった、と思っています。

失敗、というほどでもないですが、民間を平行して受けていたのと研究で調査に行かなければならなかったのが、スケジュール管理は大変でした。

●環境省を志望される方へのメッセージ

私は正直に言って、もともと理工系区分で環境省に入省するという選択肢を持っていたわけではありません。ですが、官庁訪問中の職員の方々とやりとりをきっかけに、研究や民間企業就職という選択肢と比較し考えた結果から、環境省で働いていこう、という決心ができました。

環境省一筋で志望するのもよいとは思いますが、新卒の就職活動は様々な選択肢の中から悩むことができるよい機会だと思うので、他の省庁や民間企業を含めて、就職活動の中で多くのことを体感して自分を考え直すきっかけを得てほしいと思います。

●同期への印象



話しやすい人が多い。環境問題に取り組む意欲はあるけれど、それ一辺倒ではなくて視野が広いなと思っています。

●同期からの印象

イルカ、スナメリ大好き/秘めたる情熱を感じる/優しい/
大人っぽいお姉さん/しっかりしている

